

令和4年度

入学試験問題（中学校）

A日程

国語

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

1 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

生物や社会科学の授業で、生徒たちは「人間は集団生活を営む動物である」と習います。動物の世界で言うなら「群れ」を作って生活するということです。群れを作る動物と言えば、サルや象、イルカなどいろいろな動物が浮かびます。彼らは群れをなしながら、協力し合って餌を見つめ、外敵から身を守り、ねぐらを確保しています。個々の役割が決まっている群れもあるようです。もし、群れの中に、一匹でも群れ全体の利益を無視し、自分だけの利益を追求するようなのがいたらどうなるでしょうか？ もはや群れは成り立ちません。それどころか、彼らは群れで生活するからこそ生き延びてこられた動物たちです。この先、「絶滅」ということも十分にあり得ることでしょう。

① 人間の生活も同様です。それはほかの動物以上です。役割を分担し、お互いができないことを補い合うことでいまの生活が成り立っています。昔ながらの言い方をすれば、「お互いさま」ということになります。労働と社会、そして人のありようを考えると、この「お互いさま」の感覚を持つことが、これからはますます重要になると、僕は思っています。

現代社会で起こっている問題の中にも、「お互いさま」という気持ちがあれば解決に向かうものがたくさんあります。戦争などはその最たるものです。経済面に限定しても、多くの企業や個人が、「自分だけ」とか「一人勝ち」という考え方で利益を追求する姿が目につきます。

(注1) 経済がグローバル化し、世界規模でものごとを考えなければならなくなってきているいま、「自分だけ得をしよ(注2)う」という発想は古臭い考え方と言っていいでしょう。経済は循環してこそ発展します。限られた資源を有効に活用し、豊かな生活を維持してゆくには、地球に住む一人ひとりの生活にゆとりがなければ不可能なのです。貧しい国、余裕のない国が増えれば増えるほど、環境に配慮した生活をたくてもできない人々が増えてゆきます。われわれは、もはや地球族という群れの一員なのだと自覚しなければなりません。少数のわがままな行動が、群れを絶滅へと追いやるかもしれない、そんな状況にまで来ているのではないのでしょうか。

ちよつと話が大きくなりすぎました。もう少し、卑近な話に戻りましょう。

「お互いさま」という言葉は、別の見方をすれば、「自立」を意味する言葉になります。「お互いさま」というのは、自分でやれることは自分でやり、できない部分は協力して助け合おうという姿勢で人と付き合う態度のことです。これはまさに「自立して生きる」こととまったく同じです。

この「お互いさま」の視点で現代社会の「労働」問題を見直してみます。教科書的に言うと、「労働」は有償の「職業労働」と無償の「家事労働」に分類されます。そこに別項目として「ボランティア労働」が付け加えられることもあります。でも、「群れで生活しているわれわれを支えるために営まれる行為」＝「労働」と考えれば、職業労働にしる家事労働にしるボランティアにしる、どれも大切な労働であって、そこにはなんの優劣もないことがわか

問一 部①「人間の生活も同様です」とありますが、どのような点で「同様」なのか、説明しなさい。

問二 部②「自分だけ得をしよう」という発想は古臭い考え方と言っていい」とありますが、「自分だけ得をしよう」という発想が「古臭い考え方」なのはなぜか、説明しなさい。

問三 部③「現代社会の『労働』問題」とありますが、筆者が問題だと考えているのはどのようなことか、説明しなさい。

ります。「みんなで社会を支え合っている」現実があるだけです。

むしろこれから問題になってくるのは、働く意欲も、また社会へ貢献したい気持ちもあるのに、それを活用する場を、経済情勢によって社会の側で用意できないことでしょう。群れが、群れとしての能力を最大限に生かすためには、社会を構成するメンバー一人ひとりが、持てる力を最大限に発揮できる状況や場があることが大切なのです。

労働を通じて、社会にしっかりと参加・貢献できているという感覚が持てれば、群れを作る動物であるわれわれは安心して生きていけます。社会の平和や安定にもずいぶんプラスとなります。現実社会を見ると「孤立感」＝「群れからはみ出た感」がもたになって起きていてのではないかと思える犯罪が増えてきているように思いませんか？

つまり、「お互いさま」という関係が成り立つのは、各自が「群れに参加している」「参加できている」ときであり、「自立」もまた社会参加という文脈の中でとらえる必要があるということなのです。現代社会では、「労働」を取り巻く問題が山積していますが、その多くは「労働の孤立化」や「労働は個人的な営為だ」という現代的な感覚から生じているような気がしてなりません。かといって簡単な解決方法がすぐに見つかると思えませんが、僕たち一人ひとりが働くということの意味をもう一度とらえなおすことで、周りの人との関係性を少しずつでも「お互いさま」感覚に近づけてゆくことで、時間はかかっても少しずつ働きやすい労働環境、住みやすい生活環境に変えていけると信じています。

世の中を見渡せば、儲けることより人との関係性を豊かにすることを優先して、物を作ったり、商売をしたりしている人たちも、若い人を中心に少しずつ増えてきているように思えます。僕は自分の生徒たちの中から、一人でも多く「お互いさま」感覚を持って労働市場に出てゆく人が生まれたいと期待しています。

（南野忠晴『正しいパンツのたたみ方』）

（注1）グローバル化——経済・文化などが、国境を越えて地球的な規模に拡大していくこと。

（注2）単近——身近でわかりやすいこと。

問四——部④「『労働の孤立化』や『労働は個人的な営為だ』という現代的な感覚」とありますが、これと

反対の感覚を、本文中から三十字で抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。

問五——部⑤「儲けることより人との関係性を豊かに

することを優先して、物を作ったり、商売をしたりしている人たち」の根本にあるのはどのような考え方で

問六 本文全体を通しての筆者の考えとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 社会をよりよくするために、「自分だけ」とか「一人勝ち」という考え方で利益を追求している古い体質の企業や個人を許さず、責任を追究すべきだ。

イ 労働の中でも、有償の「職業労働」より、無償の「家事労働」や「ボランティア」の方が社会貢献という点で大切なので、もっと見直していくべきだ。

ウ 群れで生きる人間は、「群れに参加している」「参加できている」という感覚を持つことが重要なので、誰もが参加できる仕事を新しく作るべきだ。

エ 一人ひとりが働くということの意味を考え、やれることは自分でやり、できない部分は協力して助け合うという姿勢を持って、社会参加していくべきだ。

一一

次の文章を読んで下の問いに答えなさい。ただし「ガンリュウ」とは「僕」のクラスメイトの岩本隆子たかこのことです。

十一月に入って間もなく、寄せ書き用の色紙を教室に持ってきた村田先生は、ガンリュウの一回目の手術の日が決まったことを僕たちに伝えた。

一回目——の言葉に教室がざわついた。そういうときにクラスを代表して「じゃあ、二回目や三回目もあるんですか？」と質問するのは、いつも山本美代子の役目だった。

先生は少し沈んだ声で「そうなの」と言った。「一回目の手術がうまくいったら、二回目もやるんだって」

失敗したら——？ クラスの誰もが同じことを思っていたから、教室は今度は(い)静まりかえった。^①美代

子もさすがにそれは質問しなかった。「手術の前に持って行ってあげたいから、順番に回して、早く書いてね」

男子と女子で一枚ずつ。クラス委員の僕と美代子が預かって、みんなにメッセージを書いてもらうことになった。

「どうする？」

その日の『終わりの会』のあと、美代子が僕の席に来て言った。テツちゃんやタケシが「ひょうひょうつ」と囁はやし立てる。

僕と美代子はクラスで「デキてる」と噂うわさされていて、もちろん僕も美代子もそのたびに打ち消して——ときには冷やかす連中を廊下まで追いかけていったが、少なくとも僕は、本気で怒ってはいなかった。悪い気はしない。「ちよつとやめてよ、変なこと言わないでよ」と怒る美代子の横顔を盗み見て、微妙ほほに頬ほがゆるんでいると、胸が

(ろ)浮うき立つことも、ある。

「なに書いていいかわかんないって、みんな言ってるの。男子はどう？」

「……おんなじ」

「あのひと、言っちゃ悪いけど、仲のいい友だちっていなかったでしょ、だから難しいよね」

気分を盛り上げるために、昼休みに女子が集まってガンリュウの思い出話をしてみたら、逆効果②になってしまったらしい。みんなの口から出てくるのは「あんなひどいことを言われた」「泣かされた」「困るときに助けってもらえなかった」という苦い思い出ばかりで、最後はガンリュウの悪口大会になってしまったのだという。

「男子の色紙、ちよつと見せてくれる？」

「……まだ、俺しか書いてないけど」

真ん中に大きく〈祈・全快 岩本隆子さん〉と書いて、僕個人のメッセージは〈手術の成功を祈っています〉にした。

「いいじゃない、『祈・全快』って、いいなあ、それ……女子もそれにすればよかったかなあ」

褒められても、あまり嬉しくない。言葉としては正しくても、ちつとも心がこもっていないのが自分でもわかつ

問一 (い) (ほ) に入れるのに適当なものを

次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じものは一度しか選んではいけません。

ア くつきりと イ しんと ウ ふわつと

エ ぱつと オ ぶすつと

問二 部①「美代子もさすがにそれは質問しなかつた」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 手術の失敗が意味することを考えると、そのことについてはいけなのではないかと美代子は思ったから。

イ クラスの誰もが思っていることを、あえて自分が質問しなくてもよいのではと美代子は思ったから。

ウ 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

エ 何度も質問するよりも、早くみんなで色紙にメッセージを書きはじめた方がよいと美代子は思ったから。

オ 何度も質問するよりも、早くみんなで色紙にメッセージを書きはじめた方がよいと美代子は思ったから。

カ 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

キ 何度も質問するよりも、早くみんなで色紙にメッセージを書きはじめた方がよいと美代子は思ったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ク 一度目の質問のあと教室が静まりかえったので、美代子はどうも一度手をあげる気持ちになれなかったから。

ていたから。

「女子はねえ、言葉でたくさん書くのもいいけど、せっかくだからきれいなほうがいいじゃない？ だから、みんなで絵を描いてみようかってことになったの」

見せてもらった色紙には、色鉛筆で描いた折り鶴や星や花や貝殻かいがらが散らばっていた。これだと言葉は少なくとも、**(は)**見たとき、にぎやかで華やかな印象がする。

「あー、こっちのほうがいいなあ、絶対にいいよ、俺失敗しちゃったー」

「そう？ でも、言葉のほうがやっぱり気持ち伝わると思うけど」

伝わるものにも、気持ちそのものがうまく湧わいてこないのだから、どうしようもない。

女子の色紙の絵をあらためて見つけた。飛行機の絵はなかった。不思議なことだが、飛行機に興味があるのは男子だけで、空を飛ぶ飛行機をぼうっと見上げる女の子はほとんどいない。

代わりに、色紙の真ん中に鳥がいた。他の絵よりもずっと大きく描いてある。水色の鳩はとのような鳥が、翼を広げて空へ飛び立つところだった。

一瞬、いいのかな、と思った。なんだか、その鳥は、遠くへ——天国に向かって飛び立っているように見えたから。「ちょっと、やだ、そんなにじっくり見ないでよお」

肩を軽くぶたれた。テッチちゃんが「ふーふげんかー、ふーふげんかー」と笑う。照れ隠しに、僕は鳥の絵を指差して、わざと怒ったふうに「これ、誰が描いたの？」と言った。

美代子は「わたし」と屈託くつたくなく答えた。「最初に描いたから大きさがわかんなくて、なんか、みんなのより全然大きくなっちゃったのよねえ」

「……うん」

「大きすぎるかなあ、やっぱり」

「……ううん、べつに」
③ 胸がざらっとした。

美代子は女子の色紙を僕の手から取って、「男子も全然できてないから安心しましたーっ」と笑って、女子が集まっておしゃべりしている輪に戻っていった。その背中を見るときもなく見送って、しつこく「あつっー、あつっー」と囁ささすテッチちゃんの頭を一発はたいてから、「帰ろうぜ」とランドセルを肩に掛けて立ち上がった。

ガンリュウの、**(に)**した不機嫌ふきげんそうな顔が、ふと浮かんだ。女子のグループではなく、僕をにらんでいた。

寄せ書きはなかなか揃そろわなかった。先生に提出する前日になっても、まだ半分しかメッセージを書き入れていない。

問三 部②「逆効果」とありますが、どういうこと

ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 思い出話で気分を盛り上げてガンリュウを上げまくったことが、反対にガンリュウを傷つけてしまったこと。

イ ガンリュウを上げますメッセージを書く気分を盛り上げるための思い出話が、反対に悪口大会になってしまったこと。

ウ ガンリュウと仲のいい友だちがいなかったことで、反対に彼女へのメッセージを書こうという思いが強まったこと。

エ ガンリュウの悪口大会になってしまったことが、反対に彼女へのメッセージを書こうという思いにつながったこと。

問四 ③「胸がざらっとした」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 女子の色紙の絵の中に飛行機が描かれておらず、代わりに鳥の絵があったことが不思議で、それでいいかなと思ったから。

イ テッチちゃんから美代子との関係をからかわれた照れ隠しに、怒ったように鳥の絵を話題にしたことが美代子に悪いと思ったから。

ウ 鳥の絵は、ガンリュウを上げますメッセージとしては他の絵より小さい方が良いと思ったが、そのことを美代子に言えなかったから。

「ペン、書くこと考えてくれよ」「そうだよ、ペンが決めてくれたら、俺ら、それ書くから」「作文得意なんだから、おまえ、たくさん思いつくだろう?」「ペンが考えてくれないんだったら、俺、『死んじゃえ』って書いておつかないっ」……。

しかたなく、ノートに言葉をいくつも書きつけた。

「早く元気になれよ」(退院したら学級会で祝いしよう)(病気なんかには負けるな)(卒業式までに退院できたら、またぼくたちの学校に戻ってきてください)(絶対に病気は治ると信じています)(がんばれ!)……。

天国に飛び立つ鳥の絵よりもずっと残酷な言葉が、いくつもあつた。いまなら、それがわかる。「そんなつもりじゃなかったんだ」と言い訳する十二歳の自分を、小さくうなずいて許す僕もいる。

僕の考えた候補の中で誰も選ばなかった言葉が、一つだけあつた。

(岩本さんがいない教室は、とても寂しいです)

なんとか仕上がった色紙を、日曜日にクラス代表の数人で病院まで届けることになった。村田先生と、僕と、美代子と、あとは希望者——人数が多かったらじゃんけん決めてからと先生は言っていたが、「どうせ暇だから行ってみようかなあ」と手を挙げたのは、テツちゃんと、コウちゃんと、タケシの三人だけだった。ガンリユウによちゅう「先生に言いつけるよ!」と叱られては「うっせえ、ブス!」と言い返していた奴らだった。

へえーっ、と先生は意外そうな顔になった。「あんがい優しいのね」と声をかけられたコウちゃんは、顔を真っ赤にして「違う違う、死にそうな奴の顔見ただけーっ」と答えた。いつもなら出席簿で頭を叩かれるはずの一言だったが、先生はなにも言わなかった。

女子は誰も手を挙げなかった。先生に「希望者は三人だけですか?」とうながされると、大勢で行くと迷惑だし、日曜はピアノがあるから、風邪気味のときはお見舞いに行っちゃいけないってお母さんに言われているから……ぼそぼそとした声があちこちから聞こえた。先生と目を合わせたくないのか、急にうつむいてしまった子もいた。

ガンリユウがこの場にいたら、いじいじした態度にいらだつて、「嫌なら嫌って、はつきり言いなさいよ、あんた」と肩ぐらい小突いて、端から泣かせていったらう。その光景が(ほ)目に浮かぶから、僕はつい笑って、笑ったあとで、⑤ じんわりと泣きそうになった。

テツちゃんたちは駅の改札を抜けるまではふだんどおりに騒いでいたが、ホームで電車を待つ段になると、急に⑥ 口数が少なくなった。

途中で急行に乗り換えるつもりだった先生に「鈍行でいいよ、ずーっと。俺、速い電車に乗ると酔っちゃうから」と言ったのは、コウちゃん。タケシはホームのベンチに座っている間ずっと爪を噛んでいたし、テツちゃんはほん

エ ガンリユウをはげますメッセージとして鳥の絵はふさわしくないのではと思いつながら、そのことを美代子に言えなかったから。

問五 部④「天国に飛び立つ鳥の絵よりもずっと残酷な言葉」とありますが、「僕」はなぜそう思ったのですか。「くから。」に続く形で、本文から二十五字ち

ようどで抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、「、」や「。」も字数に入れます。

問六 部⑤「じんわりと泣きそうになった」とありますが、それはなぜですか。「僕」の気持ちにふれながら説明しなさい。

問七 部⑥「急に口数が少なくなった」とありますが、これは「テツちゃんたち」がどういうようすだったからですか。本文から二字で抜き出しなさい。

の十分足らずの待ち時間の間に二回もトイレに行った。

僕だって緊張していた。同級生のお見舞いに行くのは、四年生るとき、盲腸もうちょうの手術をした高木くんの病室を訪ねて以来——そのときは、抜糸はっししたばかりで笑うと横腹が痛いという高木くんを、ギャグの連発でわざと笑わせて、看護師さんに叱しかられた。でも今日は違うんだぞ、と自分に言い聞かせた。

（重松清「ひこうき雲」その日のまえに）

部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① 小刻みにふるえている。
- ② 殺風景な部屋だ。
- ③ お年寄りを敬う。
- ④ 快い返事をもらう。
- ⑤ シュジンコウの気持ちがわかる。
- ⑥ 子ども会の話し合いをハジめる。
- ⑦ 小学生をタイシヨウにした作品。
- ⑧ 決勝戦で惜しくもヤブれる。
- ⑨ 将来はカモツ列車を運転したい。
- ⑩ やり方はそれぞれジュウニントイロでよい。

